

平成 30 年度事業報告

自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 31 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

目 次

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(5)
3. 編集委員会	(5)
4. 学術委員会	(6)
5. 統計調査委員会	(8)
6. 専門医制度委員会	(9)
7. 国際学術交流委員会	(12)
8. 評議員選出委員会	(13)
9. 保険委員会	(13)
10. 倫理委員会	(13)
11. 腎不全総合対策委員会	(14)
12. 危機管理委員会	(15)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(16)
14. 男女共同参画推進委員会	(16)

II. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事	(17)
(2) 監事	(17)
(3) 評議員	(18)
(4) 退任した役員等	(23)
(5) 役員等の報酬等	(24)

② 会員に関する事項 (24)

③ 職員に関する事項 (24)

④ 役員会等に関する事項 (24)

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項 (30)

⑥ 重要な契約に関する事項 (30)

事業報告の附属明細書

1. 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況	(31)
2. その他の記載事項	(32)

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第63回日本透析医学会学術集会・総会は、兵庫医科大学 内科学 腎・透析科 教授 中西 健会長が主宰し、平成30年6月29日（金）、30日（土）、7月1日（日）の3日間、神戸国際会議場、神戸国際展示場、ワールド記念ホール、神戸ポートピアホテル、アリストンホテル神戸を会場として開催した。

今回のテーマは「腎甦絶技」を掲げて開催し、参加者は18,702名であった。

<会長講演>

「余病同源」

<特別講演>

「透析医療の未来（政策の面から）」、「バイオ人工臓器・細胞の開発」、「医療とケアにおけるユーモア」、「2018年診療報酬改定が目指すもの」、「声と話し方&聞く力を磨いて、コミュニケーションスキルアップ!」、「笑顔に導く!笑顔で繋がる!笑顔が広がる!『笑いの五原則』」、「平成28年改定における「下肢末梢動脈疾患指導管理加算」の創設と平成30年改定における腎代替療法に関する事項について」、「Oxygen Sensing in the Kidney : Basic Biology and Therapeutic Opportunities」、「Dialysis Technology For The Future : Great Expectations and Healthcare System Value」

<教育講演 アドバンス>

「う蝕と歯周病は糖尿病とIgA腎症の悪化要因～口腔ケアではなく口腔管理が重要～」、「透析療法における医療安全」、「これからの腎性貧血治療」、「透析医学における臨床研究倫理」、「Iron metabolism in CKD patients（同時通訳あり）」、「我が国の健康医療戦略と腎・透析医療におけるAMEDの役割」、「Magnetic Resonance Imagingを用いた腎機能の評価」、「CKD-MBDと腎骨症候群」

<教育講演 ベーシック>

「透析患者の泌尿器科疾患（悪性腫瘍含む）」、「あなたの論文は何故rejectされるのか?」、「透析患者の下肢救済の現状とこれから」、「透析現場に求められる災害対策」、「透析患者の栄養管理とそのこつ」、「糖尿病性腎症最近の進歩」、「透析医療における眼疾患の見方」、「透析患者の脳血管系合併症」、「泌尿器・内科医からみた腎移植」、「コメディカルのための臨床研究入門2」「透析患者の血圧管理 up to date」、「透析患者リハビリの実践」、「今求められる透析液組成とは」、「世界における日本透析医学会の役割」、「ここまでわかったI-HDF」、「透析患者の心不全その病態と治療」、「最新の腹膜透析管理」、「透析患者の認知症管理」、「今更聞けない透析膜の生体適合性」、「透析患者の骨折とその対応」、「透析患者のフレイルと慢性疲労症候群」

<記念シンポジウム>

「日本透析医学会50周年記念シンポジウム—わが国の透析の進歩、そして未来へ向けて—」

<シンポジウム>

「HDFの適応について」、「高齢者の透析導入を考える」、「改訂KDIGO guidelineと日本のCKD-MBD治療 KDIGO CKD-MBD Guideline Update and Clinical Practice in Japan」、「腎代替療法における腎移植の立場」、「腎性貧血治療の現状と未来」、「改訂腹膜透析ガイドラインの目指すもの」、「透析医療における診療報酬のゆくえん」、「腎臓再生への挑戦」、「PDOPPS」、「看護連携 基礎看護教育から臨床へ」、「腎臓学会との合同企画】保存期から透析に至るCKDのトータルケア」、「透析患者のQOLとフットケア」

<ワークショップ>

「糖尿病合併透析患者治療の up to date」, 「腹膜透析研究の進歩と将来」, 「Drug in CKD (最近の話題)」, 「透析患者の感染対策の最新の話」, 「AKIにおける血液浄化療法」, 「超高齢透析患者の QOL 向上を目指して」, 「透析患者の低栄養に対する栄養介入」, 「透析患者における鉄代謝と合併症」, 「【日本臓器リハビリテーション学会との合同企画】サルコペニア・フレイルへの腎臓リハビリの役割」, 「血液浄化療法に残された課題とその対策」, 「透析患者の癌対策」, 「CKD-MBD 治療における calcimimetics を再考する」, 「透析医療のイメージ戦略」, 「臨床工学技士が関わる透析療法の現状と課題」, 「高齢透析患者の合併症と対策」, 「透析医療の組織的災害支援体制」, 「透析看護における最新的话题を療法生活から考える」, 「Vascular Access の開存向上を目指して」, 「アフレスシス施行時のバスキュラーアクセスを考える」, 「透析患者の心イベント発症病態を考察する」, 「リン-FGF23-Klotho axis : 臨床から基礎へ」, 「透析患者の骨折」, 「合同企画 : 透析患者・家族の QOL と多職種連携」, 「VA エコーだけではもったいない! 透析施設でのエコー活用術」, 「小児血液浄化療法の現状と将来展望」, 「チーム医療でのぞむ在宅血液透析」

<学会・委員会企画>

編集委員会企画 : JSDT 公式雑誌の動向と今後の展望, 保険委員会企画 : 透析医療経済の今後～診療報酬改定後の展望～, 学術委員会 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会企画 : これからの透析装置のあり方を考える, 学術委員会 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会企画 : 透析液水質管理の実際と濃度測定の標準化, 学術委員会企画 : 2017 Year in Review, 男女共同参画推進委員会企画 : 第 1-2 回 TSUBASA PROJECT, 学術委員会 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会企画 : 長時間・頻回透析の展望, 専門医制度委員会企画 : 専門医制度の現状と課題, 統計調査委員会企画 : 透析導入期早期死亡の疫学, 血液浄化に関する新技術検討小委員会企画 : 新技術で機能は甦るか!?, 腎不全総合対策委員会企画 : 地域における末期腎不全医療を考える, 危機管理委員会企画 : 透析施設の現場における災害対策の課題

<国際学術交流委員会企画>

「Free Communication 1」, 「Free Communication 2」, Symposium 1 : 「Current status and countermeasures of Virus infection in dialysis patients」, Invited Lecture : 「Nutritional management in dialysis patients」, Symposium 2 : 「The Dialysis History and Status of 2018 in Non-Western Countries」

<企業共催シンポジウム>

「透析患者の心血管疾患～CKD-MBD との関連を紐解く～」, 「透析アミロイド症」, 「静注 Calcimimetics による二次性副甲状腺機能亢進症治療」, 「腎代替療法の適切な普及に向けて」, 「療法選択を考える～Shared Decision Making～」, 「CKD-MBD : 現状と展望～Deep Dive Discussion～」, 「透析導入患者の Total Management」, 「次世代透析医療を見据えた CKD 治療戦略」, 「DOPPS Symposium」, 「透析患者の合併症治療を考える」

<市民公開講座>

日時 : 平成 30 年 7 月 22 日 (日)

会場 : 兵庫医科大学 平成記念会館

<その他>

6 月 29 日 (金) に医療安全講習会を開催

6 月 30 日 (土) に医療倫理講習会を開催

7 月 1 日 (日) に日本透析医学会認定透析液水質確保に関する研修

2) 通常総会・臨時総会

第 63 回通常総会開催 : 平成 30 年 6 月 28 日 (木) 16 : 00～神戸市中央区港島中町 6-10-1 神戸ポートピア南館 1 階「大輪田 C」において、開催した。定款第 30 条に基づき、定足数以上の評議員の出席が確認され、本総会は適法に成立した。定款第 28 条に基づき、第 63 回日本透析医学会学術集会・総会会長である中西 健会長が議長を務めた。

各常置委員会から資料に基づき、平成29年度事業報告および平成30年度事業計画の報告があり承認された。平成29年度貸借対照表および正味財産増減計算書等、監事による監査報告があり承認された。本学会の公益目的支出計画について、平成29年12月19日付け内閣総理大臣から、平成29年3月31日付けで公益目的支出計画の実施が完了した確認書が送られてきたことの報告があり承認された。令和3年第66回日本透析医学会学術集会・総会会長候補として川島病院副院長 岡田一義先生を理事会で選任されたとの説明があり、本総会で承認された。

臨時総会開催：平成30年6月28日（木）17：30～通常総会終了後、引き続き新評議員による臨時総会を開催、定款第28条に基づき、臨時総会の決議により出席評議員の中から中元秀友先生が議長を務めた。投票により役員（理事20名、監事3名）を選任した。

また、理事会で承認され、本総会に推薦された中西 健先生の名誉会員表彰と学会賞、奨励賞、コメディカルスタッフ研究助成者に、平成30年6月30日（土）神戸ポートピアホテル第一会場で授賞式を行い、学会賞受賞者の記念講演を開催した。

3) 役員会

(1) 常任理事会・理事会開催：平成30年6月1日・6月28日（臨時を含む）・8月24日・12月7日・平成31年3月22日に開催

(2) 監事による監査会開催：平成30年5月15日（火）に開催

4) 透析施設会員名簿の発行

透析施設会員名簿のデータを各施設から集め発行の手続きをとった。

5) 小委員会

(1) 情報管理小委員会

学会ホームページの円滑な運営、内容の充実化において、学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行った。

(2) 透析医療専門職資格検討委員会

① 委員会の名称を「メディカルスタッフ資格検討小委員会」から「透析医療専門職資格検討委員会」へと改称した。

② 透析療法に携わる各領域（看護師、臨床工学技士、薬剤師、管理栄養士など）の医療専門職を対象として共通する新資格制度の創設に関して協議し、新資格は各領域の既存資格を基礎とした上で講習会などを経て取得されるものとした。

(3) 感染調査小委員会

本小委員会は院内感染などの集団発症が発生した時には、関係者の協力を得て機動的に対応するとともに、感染症にかかわる諸問題が発生した場合に迅速に対応することを目的として設置されている。本年度は「HIV患者受け入れに関するアンケート調査」をまとめRRT誌（Renal Replacement Therapy 2018 4: 41 Published online: 24 October 2018 (DOI: 10.1186/s41100-018-0178-3)）と、和文誌（透析会誌 51: 577-584, 2018）に二次掲載した。また、日本透析医会が発行した「HIV感染透析患者医療ガイド」改訂作業にも参画し、2019年3月1日に発刊した。

(4) 統計調査のあり方小委員会

統計調査のあり方について検討していくこととしたが、本年度は該当がなかった。

(5) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会

① 4名の委員を追加し、研修プログラムの体制強化を図った。

② 平成30年度の研修プログラムを、平成31年2月17日から24日の間、東京・神奈川地区と、大阪・奈良地区に分かれて実施した。5名（カンボジア2名、シンガポール2名、ネパール1名）の研修生が人工腎臓の手技や手術などについて研修を受けた。インフルエンザ大流行の中、研修に影響がでない対策を立案するなど、来年度への課題も指摘された。

(6) 本学会のあり方小委員会

- ① 学術集会のあり方に関し、学術集会において発生する国内外から招聘する講演者等に支給する謝金や旅費等の支給額及び国外派遣に伴い発生する謝金及び旅費等支給額について見直しを行い、新たに学術集会に対応する規則整備を行った。
- ② 会計監査人から監査報告書に添えて提出のあった意見書の中の学術集会における決算処理の適時性に関して検討し、第66回学術集会・総会から、会場確保のための予約金等経費の予算化等の対応を進めた。

(7) e-ラーニング検討小委員会

- ① 第63回学術集会・総会の教育講演、教育講演ベーシックを収録し、2018年12月17日から2019年3月16日までの間で会員専用ホームページにアップし、専門医は単位取得できるようにした。
また、専門医以外の者もスキルアップのため視聴できるようにした。
- ② 運用については、ホームページ上で「e-ラーニング配信開始のお知らせ」を掲載し、本学会の会員（正会員、施設会員、賛助会員）へ周知した。
- ③ 単位の認定に関しては、出題された5問に全て正解することとし、全問正解するまで何度も冒頭に繰り返し繰り返し視聴することで実施した。

(8) 病腎移植に関する検討小委員会

2018年先進医療Bに採択された、修復腎移植に関する件

学会としては、7月31日に修復腎移植検討委員会の外部委員の推薦を行った。

本件は、日本移植学会 江川裕人理事長から、先進医療会議が条件として提示した、「レシピエントの選定を公平かつ適切に行うため、その優先順位決定を行う修復腎移植検討委員会（第三者委員会）に専門知識を有する学会推薦の外部委員を参画させること」についての、メール理事会審議である。

日本透析医学会は、

- ① レシピエントの選定について学会推薦の外部委員が参加する旨を承知した。
- ② 外部委員を追加して推薦することを承諾した。
- ③ 外部委員の候補者について

腎臓内科医1名と移植外科医1名ずつとして、内科系候補者を、酒井 謙（東邦大学）、外科系候補者を、佐藤 滋（秋田大学）、の2名を推薦、承認した。

以上、先進医療Bの症例申請があった場合の審議（外部委員派遣）に備えることとした。

(9) 創立50周年記念祝賀会準備委員会

- ① 第63回学術集会・総会において50周年記念シンポジウムを開催：平成30年6月30日（土）
- ② 学会創立50周年「記念講演」「記念祝賀会」開催：平成30年8月31日（金）
- ③ 創立50周年記念誌発行：1,000部

(10) 会員管理システム業者選定小委員会

- ① 指名業者の選定を行った。
- ② 現行の会員管理システムの課題と改善を考慮し、簡単な仕様書を作成し指名業者に対する説明会を行った。

(11) 透析中止に対する調査委員会（時限）

透析中止に対する調査委員会を立ち上げた。（2019年3月）

6) 学会との連携、協力関係

日本医学会（評議員・連絡委員・医学用語委員・代委員）

日本医学会連合

日本医師会

透析療法合同委員会（日本腎臓学会・日本泌尿器科学会・日本移植学会・日本人工臓器学会・日本透析医学会）

内科系学会社会保険連合

臓器移植関連学会協議会

末期腎不全治療説明用小冊子作成

糖尿病性腎症合同委員会（日本糖尿病学会・日本腎臓学会・日本透析医学会・日本病態栄養学会）

日本透析医会との連絡協議会

日本医療器材工業会

感染対策・災害対策・学術交流などに関し関連各学会等と積極的に協力，連携を結んでいる。

2. 財務委員会

平成 30 年度事業として，日本透析医学会を健全に発展させることを目指した。また，各事業に対して経費節減を心がけ，平成 31 年度予算を作成した。

3. 編集委員会

1) 公式和文誌について

- (1) 日本透析医学会雑誌を毎月 1 冊，2018 年 4 月から 2019 年 3 月までに 12 冊発行した。
発行部数は月平均 17,175 部であった。
また，第 63 回学術集会・総会特別号（抄録集）を Supplement として発行した。
- (2) 2018 年 4 月～2019 年 3 月の投稿数・掲載数は，論文投稿数 90 編，受理数 48 編，掲載された投稿論文 52 編（内訳：原著 23 編，症例報告 26 編，その他 3 編）。採択率は 64%であった。
- (3) 51 巻 11 号（CKD-MBD 特集）を特集号として発行した。
- (4) 電子ジャーナル
引き続き，科学技術振興機構（JST）の J-STAGE にて和文誌の全文を電子ジャーナルとして公開した。
最近では紙媒体の出版に遅れることなくリアルタイムで電子ジャーナル化されている。さらにアクセス数上位の論文も閲覧が可能となっている。

2) 公式欧文誌について：Therapeutic Apheresis and Dialysis（TAD）

- (1) 欧文誌は，Therapeutic Apheresis and Dialysis（TAD）として，国際アフェレシス学会・日本アフェレシス学会と共に，引き続き合計 71 編の論文等を刊行（2018 年 1 月から 2018 年 12 月まで Vol. 22 として 6 回刊行）した。2018 年ではすべての投稿が Online 経由である。最新のインパクトファクター（IF）は 1.416 である。

3) 公式欧文誌について：Renal Replacement Therapy（RRT）

- (1) 2018 年 1 月 1 日から 2018 年 12 月 31 日の期間で，世界各国から合計 90 編（前年 76 編）の投稿論文があり，53 編を完全電子ジャーナルとして出版した。アクセプト率は 69.7%であった。内訳は Research と Review のみならず，Case Report With mini-Review も受理した。このうち，一般社団法人日本透析医学会が著作権を有する Position Statement 論文は 4 編であった。このほか，Renal Replacement Therapy（RRT）を同様に公式雑誌とする一般社団法人日本臨床腎移植学会からの Position Statement 論文が 1 編であった。以下がそのリストである。

- ・ Acceptance situation of HIV patients in Japanese dialysis facilities-questionnaire survey by the Infection Survey Subcommittee
- ・ The Japanese Clinical Practice Guideline for acute kidney injury 2016
（一般社団法人日本腎臓学会を始め 5 学会共同）
- ・ Annual Dialysis Data Report 2016, JSOT Renal Data Registry

- ・ Annual Dialysis Data Report 2015, JSDT Renal Data Registry
 - ・ Trends of kidney transplantation in Japan in 2018 : data from the kidney transplant registry.
(一般社団法人日本臨床腎移植学会から)
- (2) 日本腹膜透析医学会, 日本臨床腎移植学会, 日本急性血液浄化学会, 日本腎臓リハビリテーション学会のオフィシャルジャーナルとして, 本学会を含む5学会の公式欧文誌として完全電子ジャーナルにより出版を継続している.

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

<学会賞>

平成30年度の学会賞は次の2編であり, 6月30日の第63回学術集会・総会で表彰した。(敬称略)

花房規男 東京女子医科大学 血液浄化療法科

Heterogeneity of clinical indices among the older dialysis population—a study on Japanese dialysis population. Renal Replacement Therapy 2017 ; 3 : 1.

溝渕正英 昭和大学医学部 腎臓内科

RAS Inhibitor Is Not Associated With Cardiovascular Benefits in Patients Undergoing Hemodialysis in Japan. Therapeutic Apheresis and Dialysis 2017 ; 21 (4) : 326-333.

<奨励賞>

平成30年度の奨励賞は次の1編であり, 6月30日の第63回学術集会・総会で表彰した。(敬称略)

合田朋仁 東京共済病院 腎臓内科

Circulating TNF Receptors 1 and 2 Predict Mortality in Patients with End-stage Renal Disease Undergoing Dialysis. Scientific Reports. 2017 ; 7 : 43520.

2) 学術委員会活動(ガイドライン, 提言等の作成, 広報活動)等に関する協議

- (1) 学術委員会の会合を定期的に開催し, 学術委員会関連小委員会と共同して行うべき学術活動に関して協議を行った。平成28年度に2009年度版「腹膜透析ガイドライン」の改訂ワーキンググループを設置して, 改訂作業を開始したが, 30年度に引き続きその活動をし改訂版を出版する。

3) 新たな公募研究システムの立案

新たな公募研究システムを, 学術委員会主体で行うこととし, 統計調査委員会と協力して新しい公募研究システムを立ち上げたが, この活動を進める。

4) 栄養問題検討ワーキンググループ(菅野義彦委員長)

前年度から引き続き行ってきた栄養評価の指標につき第62回学術集会・総会ワークショップでの委員発表をもとにワーキンググループとしての推奨スクリーニング法を提唱し, その内容を学会誌に掲載予定である。

5) 腹膜透析ガイドライン改訂ワーキンググループ(伊藤恭彦グループ長)

「日本透析医学会診療ガイドライン作成指針」に則り改訂作業を行っている。

Part 1に対してワーキングメンバー中心に記述作業, 査読メンバー, 学術委員会によってreviewを行った。Part 2では, Clinical Question (CQ) に対してSystematic Review (SR) 作業を行い, パネル会議を開催し各CQに対する推奨度を決めた。学術委員会のreviewを行った。

6) 小委員会活動

(1) 学術専門部小委員会(小岩文彦委員長)

2015年から開催している新たな学術システムを構築するDialysis Therapy, 2017 year in reviewを第63回学術集会・総会(平成30年6月)において委員会企画として開催した。その内容を透析会誌2018 ; 51(12) : 767-797に「Dialysis Therapy, 2017 year in review」として掲載した。

(2) 血液浄化療法の機能と効率に関する小委員会・ISO 対策ワーキンググループ合同委員会(友 雅司委員長)
「透析装置画面の標準化」に関しては日本臨床工学技士会および MT-Japan と協議中であったが本件に関して、第 63 回学術集会・総会にて委員会セッション「これからの透析装置のあり方を考える」を開催した。

第 64 回学術集会・総会にヘモダイアフィルターの性能評価法について、学術委員会企画「Hemodiafilter の性能評価」として提案することとした。

<透析排液管理ワーキンググループ>(峰島三千男ワーキンググループ長)

・都内透析施設から下水道法の基準を著しく逸脱した排水によって下水道管損傷事例が発生したことを受け、本学会と公益社団法人日本透析医会、公益社団法人日本臨床工学技士会の 3 団体からなるワーキンググループを結成し、都内透析施設(施設会員)に対し透析関連排水の管理に関する実態調査を実施した。その結果、十分な排水処理がされていない施設が多数存在することが判明したため、速やかに中和処理システム設置等を促す勧告を 3 団体より発し、関連法・条例に定められる排水基準を遵守するよう啓発活動を展開した。また具体的な排水管理に関する対策についての検討を実施した。

<頻回・長時間血液透析における機能・効率と安全性の検討ワーキンググループ>(峰島三千男ワーキンググループ長)

本ワーキンググループで議論した内容を、委員会報告「頻回・長時間透析の現状と展望」にまとめるべく、執筆依頼を実施した。

<ISO 対策ワーキンググループ>(川西秀樹ワーキンググループ長)

ISO 会議と連携し、日本の見解を反映させた。2018 年度には ISO 会議(透析関係)は開催されなかった。

(3) 血液浄化に関する新技術検討小委員会(山下明泰委員長)

① 第 63 回学術集会・総会(平成 30 年 6 月)において、本小委員会で議論した成果を、血液浄化に関する新技術検討小委員会企画「新技術で機能は甦るか!」にて発表し、多くの出席者を集め、成功裏に終了した。

② 本小委員会で進行中の複数のプロジェクトについて、臨床応用に近いところに来ているプロジェクトを支援するシステムについて、具体的な方策を協議した。

③ 血液浄化法の新しい可能性を志向する他の研究会(第 27 回日本次世代人工腎臓研究会, 平成 30 年 9 月)において、本小委員会の成果の一部をベースに 2 つの特別セッションを提案し、好評裏に終了した。

(4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会(阿部雅紀委員長)

① 体験参加型セッションの開催

② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催について計画したが、採択にいたらなかった。

(5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会(友 雅司委員長)

コメディカルスタッフ研究助成基金運営規定に基づき、研究助成金の対象者の選定を行った。今年度は以下の 2 名への助成が決定した。(敬称略)

① 人見泰正

「エアレス回路が透析患者の血液凝固反応に与える影響」

② 千崎大樹

「血液透析患者におけるサルコペニアの筋量スクリーニングの作成」

(6) 透析医学用語集作成小委員会(土谷 健委員長)

透析および関連領域における用語の統一性を確立することで会員の知識および学術的な記載(論文, 学術発表など)に普遍性を持たせる目的で透析医学用語集が平成 19 年に作成されたが、新しい用語・古くなった用語等もあるので、基本的に用語集を改訂する方針とした。日本腎臓学会とも連携をとることを確認し、改訂作業にはいった。

5. 統計調査委員会

- 1) 2017年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査と報告
 - (1) 「図説 わが国の慢性透析療法の現況」の冊子を廃止し、日本透析医学会雑誌 51 巻 12 号（従来の和文報告書）に「わが国の慢性透析療法の現況（2017年12月31日現在）」をオールカラーで掲載した（2018年12月）。
 - (2) 上記現況報告のPPTファイル、PDFファイルを学会ホームページに掲載した。
 - (3) 上記現況報告を英文化し、RRT誌への投稿作業中である。
 - (4) CD-ROM版「わが国の慢性透析療法の現況（2017年12月31日現在）」を会員施設と調査協力非会員施設に送付した。
 - (5) 2017年集計結果を学会ホームページ会員専用ページのWADDAシステム（自動集計システム）で公開すべく準備中である。
- 2) 2018年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査
 - (1) 2019年4月1日現在収集作業中であるが、ほぼ例年並みの回収状況である。
- 3) 「わが国の慢性透析療法の現況（2016年12月31日現在）」を Annual Dialysis Data Report 2016, JSDT Renal Data Registry として、Renal Replacement Therapy (2018) 4 : 45, DOI 10.1186/s41100-018-0183-6 として掲載した。
- 4) 2018年度以降の統計調査年次報告書の作成方針の決定
 - (1) 図説「わが国の慢性透析療法の現況」は2017年報告から廃止し、従来の和文報告書の図を増やしオールカラーとして当該翌年の日本透析医学会雑誌 12 号に掲載することとした。
 - (2) CD-ROM版「わが国の慢性透析療法の現況」は2019年の調査結果をもって発行を廃止する。必要な集計結果は、学会ホームページの会員専用ページに掲載する。
- 5) データベース整備関連
 - (1) 新規導入患者の定義が2011年以前と2012年以後で異なっていたが、2012年以前の定義で今後統一することを決定した。
 - (2) WADDAシステム用のデータベースはCD-ROM帳票作成のものとは一致している構造になっているが、帳票をランダムサンプリングして精度を確認した。
 - (3) 学術解析用の研究用データベースファイル切り出しシステムを円滑に出力できるように準備している。
 - (4) 完全匿名化以前のデータは、準拠予定であった「匿名加工の医療者向けガイドライン」の施行が未定なため、完全匿名化前データは本学会事務局の金庫に保管することになった。
- 6) 透析調査解析小委員メンバー公募システムの設立
 - (1) すべての学会員から公正に解析小委員を選定する条件を設定し、2019年度に公募を行い、次期キャビネットに小委員推薦リストを作成することを決定した。
- 7) 第63回学術集会・総会において以下のセッションを開催・企画した。
 - (1) 統計調査委員会企画：「透析導入期早期死亡の疫学」
 - (2) 教育講演ベーシック「あなたの論文は何故 reject されるのか？」
 - (3) 教育講演ベーシック「コメディカルのための臨床研究入門」
- 8) 統計調査データにおける研究活動の推進・論文化
 - (1) 学術委員会等他委員会と協力の上 JRDR データベースの解析、論文化を解析小委員会を中心に行った。
 - (2) 2018年度は JRDR を用いた研究結果を英文 12 編、和文 1 編が掲載された。
- 9) 統計調査結果の英語版ホームページの充実
 - (1) JRDR の調査結果を広く海外に発信するために、英語版ホームページの充実に努めた。

10) 国内・国際協力の推進

- (1) 米国腎臓データシステム（USRDS）に対するデータ提供は、例年通り行った。

統計解析小委員会

- (1) 学術委員会など学会内諸委員会と協同した各小委員の解析計画をブラッシュアップし解析を進めた。
- (2) 外部委員を招いたデータ解析の研修会を開催した。

地域協力小委員会

- (1) 2018年に新規に開院・閉院した施設を調査した。2018年末調査回収のため、各地域において、未回収施設に対する電話やFAXによる督促を行った。
- (2) 統計調査への理解を深めるため地域協力員に、統計調査委員会議事録のダイジェスト版を送付した。

6. 専門医制度委員会

1) 専門医制度委員会

- (1) 日本専門医機構から2018年12月27日付けでサブスペシャリティ領域専門医制度の機構認定に関する調査依頼があり、回答期限が2019年1月31日であったため、専門医制度委員会および各小委員会の委員長で回答内容を作成し、各小委員会委員に意見を求め、メール専門医制度委員会とメール理事会に諮り、承認され提出した。
- (2) 生涯教育プログラムを、11地区の地方学術集会で実施した。
- (3) 第9回国際腹膜透析学会アジア・太平洋大会（APCM-ISPD2019）と日本透析機能評価研究会を全国規模学術集会、九州アクセスライブフォーラム研究会を地方学術集会として認定した。

2) 研修プログラム小委員会

- (1) 専門研修カリキュラムを合冊した専門研修プログラム第2版（プログラム制）を作製した。
- (2) プログラム制だけではなく、カリキュラム制についての検討を開始し、専門研修プログラム第3版を作製中である。基本領域では、泌尿器科専門医と救急科専門医と1年の連動研修、サブスペシャリティ領域では、腎臓専門医と1年の連動研修を可能とした。

3) カリキュラム小委員会

- (1) 日本専門医機構専門医制度整備指針に準じて、専門研修指導マニュアル第3版と専門研修トレーニング問題解説集第3版を作製した。指導マニュアルを関連委員に配布し、ホームページの会員専用ページにアップした。
- (2) 透析専門医としての「質」を継続維持していくため、本学会専門医の更新を目指す医師を対象とする「セルフトレーニング問題」を導入しており、編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5単位）を認定した。なお、専門医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答を認定期間5年の内1回以上正答として義務付けている。応募者に問題・解答用紙（マークシート）を送付し、受付期間は5月1日～5月31日迄で実施し問題・正解・解説は8号に掲載した。
- (3) 提出されたe-ラーニング問題のブラッシュアップは、時間の都合上、本小委員会委員長とe-ラーニング小委員会委員長と専門医制度委員会委員長が行った。

4) 専門医認定小委員会

- (1) 専門医の更新を申請するためにセルフトレーニング問題の正答1回が必要であり、正答できなかったラストチャンス先生に対し、救済措置をとっていた。留学などで専門医更新できない先生に対して、再取得しやすいように、専門医の資格を喪失した者が再審査資格認定を申請する際に症例実績の提出をしなくてもよいことに緩和したため、正答できなかったラストチャンス先生に対しての救済措置を廃止した。なお、再取得のため、申請5年以内でのセルフトレーニング問題の正答は必要となる。

- (2) 専門医更新と指導医更新の研修期間で、週に1回の勤務は研修期間として4分の1に数えられないことを明記した。
- (3) 指導医更新を申請条件で、「必要な所定単位の取得・業績の条件を満たしている」を「必要な所定単位を満たしている」に変更した。
- (4) 業績として、日本透析医学会学術集会の発表および本学会誌（日本透析医学会誌, TAD, RRT）掲載論文は認める。これら以外の場合でも透析患者の血液浄化関連に限り業績として認めるが、非透析患者の透析以外の血液浄化に関するものは認めないことを明記した。
- (5) 年次学術集会に参加して教育講演を1時間聴講した5単位に加え、1時間のe-ラーニング教育講演を視聴後出題された問題を全問正答し3,000円を支払った時に1単位を付与し、専門医の申請と更新の取得単位として認めた。なお、教育講演の受講と視聴を合わせて、年間5単位までとした。教育講演の受講時は、自己責任で必ず音と画面を確認し、後日受講したという申し出は認めないこととした。
- (6) 年次学術集会に参加し教育講演を聴講する場合には、会員証のバーコードを読み込み、その入退室のデータを利用して単位取得証明書（5単位）を発行し、e-ラーニング視聴の場合は、1時間単位のe-ラーニング視聴後出題された問題を全問正答し1単位3,000円を支払った場合は、単位取得証明書を発行し、専門医の資格取得前の正会員に専門医申請の取得単位として認めた。
- (7) 専門医試験申請の症例要約審査での不正を防止するために、2020年度から、症例要約には、施設の患者ID、年齢、性別、外来・入院の別、入院日、退院日、受け持ち期間を記載することとなった。2019年度から教育責任者（またはそれに準ずる責任者）は、受験者の症例を十分チェックし、提出する症例要約すべてに自筆署名するうえ、全受験者から入院症例要約のサンプリングを実施し、該当する同一の入院サマリーのコピー（ID、生年月日、性別、入院日、退院日、主治医名以外の個人情報に塗りつぶし）を提出し、審査することになった。なお、2例までは外来症例を可とし、診療した診療録記録を提出することになった。
- (8) 腹膜透析の提出サマリーが1例なので、実態を把握して腹膜透析サマリー数を検討するために、施設での腹膜透析実施状況についての調査を統計調査委員会に依頼した。
- (9) 専門医の適正数と年間育成専攻医数の検討中である。専門研修基幹施設に立候補した施設の平均専門医数は約5名であり、専門研修連携施設の必要専門医数を病院3名、クリニック1名とし、残りの施設には1名の専門医が必要とすると、最新データでは6,818人となった。

5) 専門医試験小委員会

- (1) 専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、客観式筆記試験（問題形式はAタイプ、X2タイプ）、口頭試問試験の3者の総合的な判断で行い、合否を決定した。
- (2) 優良な試験問題を正答率50~70%かつ識別指数0.2~0.4以上と定義し、過去の試験問題の一部をブラッシュアップするとともに新規に問題を作成し、500題をプールの目標とした。すべてのプール問題の見直しを開始した。
- (3) 試験問題をエクセルファイルで、IDと分野分類（大項目・中項目・小項目）により格納し、事務局が管理を行い、専門医試験小委員会委員長とは、パスワード付きのメールで共有している。
- (4) 専門医制度における倫理の問題についても審議し昨年同様に啓発し、専門医認定試験にも倫理の問題を出題した。
- (5) 不正行為防止のためのサンプリングは、症例要約提出後に、すべての受験者から指定した症例のサマリー原本複写（1症例）を提出させ、提出した症例要約と比較することとした。次回からは、すべて入院サマリーを提出することに決定した。
- (6) 妊娠でつわりのひどい受験者に対し、試験会場内に衝立を設置し、飲食を許可した。

6) 施設認定小委員会

- (1) 新しい専門医制度における専門基幹施設と専門連携施設による施設群形成は、研修プログラム小委員会

から施設認定小委員会の仕事に移行した。

(2) 研修プログラム小委員会の都道府県委員を施設認定小委員会と兼務とし、施設群の見直しを開始した。

7) 専門医認定（専門医認定試験）と更新、指導医認定と更新、認定施設・教育関連施設認定と更新の公示・受付・結果等については下記の通りである。

【2018年度 第29回 専門医認定】

申請受付会告 2018年3号～5号
申請書類受付 2018年6月1日～6月30日
専門医認定試験（筆答試験および口頭試問）10月21日（第3日曜日）
試験会場 都市センターホテル

申請者数	287名
書類審査不適格者数	7名
辞退者	2名
書類審査適格者数	278名
客観式筆答試験・口頭試問試験受験者数	276名
客観式筆答試験・口頭試問試験欠席者数	2名
客観式筆答試験・口頭試問試験不適格者数	43名
客観式筆答試験・口頭試問試験適格者数	233名（筆答・口頭試験 合格率84.4%）
適格者数	233名/287名（合格率81.2%）

【認定期限2019年3月31日までの専門医更新総数】

更新申請受付会告 2018年8号～10号
更新申請書類受付 2018年11月1日～11月30日
更新対象者数 964名
更新申請者数 951名
更新適格者数 951名（合格率100%）

【2018年度 第29回 指導医認定】

申請受付会告 2018年10号～12号
申請書類受付 2019年1月6日～2018年1月31日
申請者数 103名
適格者数 95名（合格率92.2%）

【認定期限2019年3月31日までの指導医更新総数】

更新申請受付会告 2018年9号～11号
更新申請書類受付 2018年12月1日～12月31日
更新対象者数 407名
更新申請者数 378名
更新適格者数 377名（合格率99.7%）

【2018年度 第28回 認定施設・教育関連施設認定】

申請受付会告 2018年4号～6号
申請書類受付 2018年7月15日～8月15日
申請施設（84施設）

認定施設	19 施設
教育関連施設	65 施設
適格施設 (83 施設)	
認定施設	19 施設 (合格率 100%)
教育関連施設	64 施設 (合格率 97.5%)

【認定期限 2019 年 3 月 31 日までの認定更新施設総数】

更新申請受付会告	2018 年 4 号～6 号
更新申請書類受付	2018 年 7 月 15 日～8 月 15 日
更新対象施設 (120 施設)	
認定施設	54 施設
教育関連施設	66 施設
更新申請施設 (79 施設)	
認定施設	48 施設
教育関連施設	51 施設
更新適格施設 (98 施設)	
認定施設	47 施設 (合格率 97.9%)
教育関連施設	51 施設 (合格率 100%)

【各小委員会の認定状況 (2019 年 4 月 1 日現在)】

専門医数	5,911 名	休会者・保留者含む
指導医数	2,053 名	休会者・保留者含む
施設認定数	1,169 施設	(認定施設 482 施設, 教育関連施設 687 施設)

7. 国際学術交流委員会

1) 第 63 回学術集会・総会において、国際学術交流委員会として下記の企画を行った。

I. 招請講演

(1) Prof. Alp Ikizler (USA) “Nutritional management in dialysis patients”

II. シンポジウム

(1) シンポジウム 1 Current status and countermeasures of Virus infection in dialysis patients

① Vivekanand Jha (India)

② Elena Zakharova (Russia)

③ Ahmed Sokwala (Kenya)

④ Minoru Ando (Japan)

⑤ Takuma Shirasaka (Japan)

(2) シンポジウム 2 The Dialysis History and Status of 2018 in Non-Western Countries

① Hussein M.A. Bagha (Kenya)

② Thim Pichthida (Cambodia)

③ Elena Zakharova (Russia)

④ Abdul WM Wazil (Sri Lanka)

⑤ Kenichi Kokubo (Japan)

Ⅲ. 一般講演 Free Communications

例年通り、公募を行った。

Ⅳ. Farewell Reception

海外からの参加者、演者、国際交流委員、日本透析医学会評議員などの学術交流の場として、大会期間中にアジアの夕べを開催した。Welcome Party については例年通り、サポートを行った。

Ⅴ. Travel Grant 等

招請講演演者に対しては、欧米演者は講演料 2000 ドル、交通費 5000 ドル、アジア演者は 1000 ドル、交通費 3500 ドルを支給、シンポジストには欧米演者には講演料 1000 ドル、交通費 3000 ドル、アジア演者には講演料 10 万円、交通費 15 万円支給することとした。一般演題に関しては、World Bank Criteria による Lower-middle income countries, Low-income countries に対して、サポートを厚くすることとした。Lower-middle income countries, Low-income countries については年齢制限はなしとし、travel grant 10 万円（ただし VISA が必要な国からの場合は旅行保険込み）、Upper-middle-income countries, High-income countries については 40 歳以下を対象として 5 万円支給とした。一般演題としては 5 か国から 7 演題の発表があり、Travel Grant として 55 万円支給した。

2) 国際交流派遣事業

海外関連学会への交流委員派遣は今年度も見送った。

3) その他

国内外で開催される、関連国際学会へ各委員が独自に参加した。

8. 評議員選出委員会

評議員の任期は 2 年であるため、平成 30 年度は選出を行わなかった。

9. 保険委員会

2020 年度の保険改定に向けて一般社団法人内科系社会保険委員会連合会（内保連）の血液浄化委員会、日本腎臓学会、日本小児腎臓学会、日本アフエレシス学会、日本急性血液浄化学会、日本腹膜透析医学会、日本透析医学会、日本腎臓リハビリテーション学会と連携して提案項目の検討を行い、内保連に下記の第一次提案をした。日本透析医学会保険対策ワーキンググループを立ち上げた。

透析液水質確保に関する研修を第 63 回学術集会・総会において実施した。

保険委員会企画として、第 64 回学術集会・総会において「透析医療における診療報酬」を行う予定となった。

一般社団法人外科系学会社会保険委員会連合会(外保連)への加入を働きかけ、平成 31 年 3 月 25 日承認された。

2020 年度の保険改定要望について、内保連に下記を第 1 次提案した。

- (1) 透析用血管アクセス管理加算
- (2) 人工腎臓、月間の回数制限の是正
- (3) 人工腎臓、施行中の患者の HIV-1, 2 抗体検査
- (4) 血中セレン濃度測定（日本臨床栄養学会から本学会との共同提案）

10. 倫理委員会

1) 倫理委員会の開催

(1) 統計調査臨床研究倫理審査について審議し承認した。

(2) 検討小委員会が審査を経て承認し報告のあった研究倫理審査 11 件について、承認し理事長に答申し申請

者に通知した。

(3) 検討小委員会が審査を経て承認し報告のあった研究倫理審査1件について、理事会において審議し再審査のため検討小委員会に差し戻した。

2) 研究倫理に関する検討小委員会の開催

研究倫理審査の申請のあった11件の予備審査および検討小委員会の審査を経て承認し倫理審査委員会に報告した。

3) 個人情報管理

個人情報（評議員、正会員氏名、所属）の提供依頼があり

(1) 個人情報管理者の承認を得るもの（規則第4条関係）

7件申請があり、いずれも承認した。

(2) 個人情報管理者、理事長、常任理事の合意で決定し、理事会の承認を得るもの（規則第8条関係）

本件の申請はなかった。

4) 拡大倫理委員会

拡大倫理委員会を設置した。（2019年3月）

11. 腎不全総合対策委員会

本委員会では、これまで保存期から透析期への良好な移行を主要な目標に掲げて活動してきたが、2018年に10年ぶりに腎疾患対策検討会の報告書が改訂され、従来からのCKD発症予防、重症化予防だけでなく、透析・移植患者のQOLの改善が目標として加わったことを考慮して、これまでの活動を継続、総括するとともに、新たな活動を始める準備を行った。

1) 地域における腎不全医療アクセスの問題点の解析

CKD患者において、その進展予防と高齢化が問題であり、地方においては特に重大な問題となっている。地方では非腎臓専門かかりつけ医が、初期の腎疾患の管理を行うことが多々あるが、非腎臓専門かかりつけ医における「CKD診療ガイドライン」の認知度や活用度についての報告はない。CKD患者数に比べ、透析導入の数が少ないなど、非専門医から腎臓専門医や透析医へのアクセスに問題がある可能性のある地域に注目し、その連携の問題点と解決策を明らかにするために、腎臓内科、透析のない施設に対して「地域における腎疾患治療の現状に関するアンケート」を行うこととした。

そこで、本委員会では、まずは、広大な面積をもち、過疎と高齢化が進んだ岩手県を中心に、末期腎不全医療の現状について非腎臓専門かかりつけ医を対象にアンケート調査を行った。岩手県でのCKDの認知度は、全体の約85%であった。また全体の約70%の医師がCKDガイドラインを認知していたが、そのうちの約55%のみが活用している状況であった。また約20%の医師が透析療法非導入の経験があった。

今後は、さらに島根県、秋田県など同様の地域での調査を継続するとともに、これまでの地域とは対照的な、自治体とタイアップしたCKD対策が進んでいる地域（山梨県、熊本県など）でも調査する準備を開始した。

2) 委員会企画シンポジウム

第63回学術集会・総会において、「地域における末期腎不全医療を考える」と題するシンポジウムを行い、地域による特色とその比較、また移行期の管理、腹膜透析、移植医療の推進に関する発表がなされ、問題点を抽出し、認識することができた。

3) 新たな問題点の抽出

より広範な活動のために、委員に問題点の抽出を依頼し、それをまとめた。その一部を次年度の委員会企画シンポジウムで取り上げ、問題提起をすることとなった。具体的なテーマとして、末期腎不全患者のQOL、Shared Decision Makingに基づく腎代替療法の選択、末期腎不全患者の血糖管理などを選択し、論点の整理を始めた。

4) 腎代替療法の適正な選択のための情報提供

本活動は、従来から当委員会の重要な課題であり、腎臓専門医に対する教育だけでなく、関連学会と合同で「末期腎不全治療選択」小冊子を改訂するなどの活動を行ってきたが、今年度は、日本腎臓病協会の活動や自治体との協力も通じて、啓蒙活動の場がさらに広がった。

さらに、今年度は、透析の見合わせだけでなく、腎代替療法の適正な選択についても複数の委員会やコメディカルも含む関連学会とあらためて相談する機会が生じてきた。今後は、さらに、患者の意見を大きく取り入れた情報提供をあらためて考えていく必要がある。

12. 危機管理委員会

1) 危機管理委員会

透析医療における安全管理、災害と透析医療をテーマとした学術活動を行うとともに、災害時には関連団体と緊密に連携し対策を行った。

2) 災害対策小委員会（山川智之小委員長）

(1) 第 63 回学術集会・総会（6月29日～7月1日、神戸国際会議場ほか）において、「透析施設の現場における災害対策の課題」というテーマで災害に関する危機管理委員会企画を行った。さらに、その内容を委員会報告としてまとめて透析会誌に掲載予定。

司会：安藤亮一，山川智之

- ① 宮崎真理子（東北大学）患者への防災教育～患者とともに備えを学び、生命を守る～
- ② 赤塚東司雄（赤塚クリニック）透析施設におけるハードウェア対策の実態と課題
- ③ 山家敏彦（神奈川工科大学）災害支援と受援のマッチングの課題～JHAT 活動の経験から～
- ④ 鈴木一裕（援腎会すずきクリニック）透析クリニックにおける災害対策マニュアルのあり方〈緊急離脱も含め〉
- ⑤ 相澤 裕（矢吹病院）患者とどのように情報共有するか
- ⑥ 杉本浩一（日機装株式会社）災害被災地に対する医療機器メーカーの立場での BCP

(2) リニューアルされた本学会のホームページ「一般の方へ」のメニュー「災害に対する備え」に患者向けのステートメントを掲載した。

(3) 第 64 回学術集会・総会（2019年6月28日～30日、パシフィコ横浜）において、「経験に学ぶ透析医療の災害対応」をテーマとした危機管理委員会企画を計画した。

(4) 日本透析医学会の理事、危機管理委員会、統計調査委員会、地域協力員は引き続き日本透析医会の災害対策メーリングリストに参加し、災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力した。

3) 医療安全対策小委員会（満生浩司小委員長）

(1) 第 63 回学術集会・総会（6月29日～7月1日、神戸国際会議場ほか）において、医療安全に関する教育講演を行った。

講師：長谷川剛（上尾中央総合病院）、演題名：透析医療における医療安全

(2) 第 64 回学術集会・総会（2019年6月28日～30日、パシフィコ横浜）において、「透析療法における医療安全を考える」をテーマとした危機管理委員会企画を計画した。

(3) 医療事故調査報告制度に協力団体として登録しているが、医療事故調査・支援センターからの依頼で調査委員を派遣して、事故事例のセンター調査を担当した。

(4) 医療事故調査委員を各都道府県に配置し、必要に応じて委員の更新を行った。

(5) 厚生労働省等から報告される薬剤・医療器具などに関する緊急安全情報の中で、透析医療に関わるものについて、日本透析医学会ホームページを利用して会員に周知を図った。

13. 研究者の利益相反等検討委員会

- 1) 「日本透析医学会医学研究の利益相反に関する指針」に基づき、利益相反状態に関連した以下の事項を実施した。
 - (1) 会員が総会等で発表する利益相反状態に関する情報開示
 - (2) 会員が学会誌に投稿する際の利益相反状態に関する報告書の提出
 - (3) 本学会の役員（理事長，理事，監事），総会会長，委員会会長，特定の委員会並びにその作業部会委員の利益相反状態に関する自己申告書の提出
 - (4) 日本医学会 COI 管理部会からのアンケートにおいて日本透析医学会としての利益相反に関する姿勢を書面にて答えた（平成 30 年 9 月 12 日）。

- 2) ガイドライン作成における利益相反情報について（透析会誌 49(2)：89～158, 2016)

一般社団法人日本透析医学会は、2016 年以降、本学会が作成する臨床ガイドラインについては、作成ワーキンググループのメンバー（外部評価委員を含む）が中立性と公明性をもって作成業務を遂行するために、実際または予想されうる問題となる利益相反状態を避けることに最大限の努力をはらっている。

すべてのワーキンググループのメンバーは可能性としてまたは実際に生じる利益相反情報の開示を行うため、日本透析医学会利益相反委員会へ利益相反自己申告書（署名済）を提出し、この書類は毎年更新され、情報は状況に応じて適宜変更される。これらのすべての情報は、ガイドライン文中の「利益相反情報についての開示」に記載し、これを裏付けるすべての情報は日本透析医学会事務局が保管している。

文献

日本透析医学会：日本透析医学会における医学研究の利益相反（COI）に関する指針。2011：
<http://www.jsdt.or.jp/jsdt/1370.html>

14. 男女共同参画推進委員会

- 1) 男女共同参画推進委員会

日本透析医学会ホームページに TSUBASA PUROJECT を広く周知するため専用のバナーを設置し、男女共同参画推進委員会の項の拡充を図った。

- 2) 小委員会の活動

- (1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

日本臨床工学技士会，日本腎臓病薬物療法学会，日本腎不全看護学会，日本病態栄養学会のそれぞれと共同し働き方改革について各学会の現状と施策を検討することとしているが，継続して検討することとなった。

- (2) 女性医師育成小委員会

第 1 回「TSUBASA PROJECT」では 7 名が参加し 6 課題を研究中であり，そのうち 3 課題は研究が終了し，論文化中である。第 64 回学術集会・総会において，6 課題中 5 課題が最終報告をする予定である。

第 3 回「TSUBASA PROJECT」は男女共同参画推進委員会主導型の研究として参加者を募り，東京女子医科大学東医療センターの西沢蓉子医師と，順天堂大学腎臓内科の野原奈緒医師の 2 名を選出した。また，西沢蓉子医師の指導は所属施設の小川哲也医師と女性医師育成小委員会の担当委員が共同して行うことになった。研究報告は第 65 回学術集会・総会からの予定である。

第 4 回「TSUBASA PROJECT」は以下のように企画した。

研究課題は「透析患者の Gender」として，日本透析医学会の女性医師の正会員を 4 人募集し，募集期間は 2019 年 5 月 1 日から 8 月末日まで，研究期間は 2 年間とした。また，研究助成金は一研究課題あたり上限 50 万円とした。

Ⅱ. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
理事長	中元秀友	平成30年6月28日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
常任理事	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
同	重松隆	同	非常勤	なし	
同	新田孝作	同	非常勤	なし	
理事	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
同	岡田一義	同	非常勤	なし	
同	熊谷裕生	同	非常勤	なし	
同	倉賀野隆裕	同	非常勤	なし	
同	小岩文彦	同	非常勤	なし	
同	酒井謙	同	非常勤	なし	
同	土谷健	同	非常勤	なし	
同	鶴屋和彦	同	非常勤	なし	
同	友雅司	同	非常勤	なし	
同	花房規男	同	非常勤	なし	
同	深川雅史	同	非常勤	なし	
同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
同	満生浩司	同	非常勤	なし	
同	森石みさき	同	非常勤	なし	
同	吉田一成	同	非常勤	なし	
同	竜崎崇和	同	非常勤	なし	

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	宍戸寛治	平成30年6月28日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
同	武本佳昭	同	非常勤	なし	
同	前野七門	同	非常勤	なし	

(3) 評議員

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
1	評議員	赤井靖宏	平成30年6月28日～選任後2年以内に終了する事業年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
2	同	浅井利大	同	非常勤	なし	
3	同	朝田啓明	同	非常勤	なし	
4	同	東治人	同	非常勤	なし	
5	同	阿部貴弥	同	非常勤	なし	
6	同	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
7	同	荒川俊雄	同	非常勤	なし	
8	同	安藤哲郎	同	非常勤	なし	
9	同	飯ヶ谷嘉門	同	非常勤	なし	
10	同	家原典之	同	非常勤	なし	
11	同	井尾浩章	同	非常勤	なし	
12	同	池田裕次	同	非常勤	なし	
13	同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
14	同	石橋由孝	同	非常勤	なし	
15	同	石光俊彦	同	非常勤	なし	
16	同	和泉雅章	同	非常勤	なし	
17	同	磯野元秀	同	非常勤	なし	
18	同	一色啓二	同	非常勤	なし	
19	同	井手健太郎	同	非常勤	なし	
20	同	伊藤孝史	同	非常勤	なし	
21	同	伊藤哲二	同	非常勤	なし	
22	同	伊東稔	同	非常勤	なし	
23	同	伊藤恭彦	同	非常勤	なし	
24	同	稲熊大城	同	非常勤	なし	
25	同	今田崇裕	同	非常勤	なし	
26	同	今田直樹	同	非常勤	なし	
27	同	岩谷博次	同	非常勤	なし	
28	同	植木嘉衛	同	非常勤	なし	
29	同	植田敦志	同	非常勤	なし	
30	同	宇田晋	同	非常勤	なし	
31	同	内田潤次	同	非常勤	なし	
32	同	内田信一	同	非常勤	なし	
33	同	絵本正憲	同	非常勤	なし	
34	同	大坪茂	同	非常勤	なし	
35	同	大家基嗣	同	非常勤	なし	
36	同	岡田一義	同	非常勤	なし	
37	同	緒方浩顕	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
38	同	岡田浩一	同	非常勤	なし	
39	同	岡戸丈和	同	非常勤	なし	
40	同	小川哲也	同	非常勤	なし	
41	同	小川智也	同	非常勤	なし	
42	同	奥野仙二	同	非常勤	なし	
43	同	小野寺一彦	同	非常勤	なし	
44	同	小原史生	同	非常勤	なし	
45	同	角田隆俊	同	非常勤	なし	
46	同	笠井健司	同	非常勤	なし	
47	同	春日弘毅	同	非常勤	なし	
48	同	金井英俊	同	非常勤	なし	
49	同	要伸也	同	非常勤	なし	
50	同	金子佳照	同	非常勤	なし	
51	同	金田幸司	同	非常勤	なし	
52	同	上條祐司	同	非常勤	なし	
53	同	川合徹	同	非常勤	なし	
54	同	川端雅彦	同	非常勤	なし	
55	同	神田英一郎	同	非常勤	なし	
56	同	菅野義彦	同	非常勤	なし	
57	同	北村健一郎	同	非常勤	なし	
58	同	木全直樹	同	非常勤	なし	
59	同	久野勉	同	非常勤	なし	
60	同	窪田研二	同	非常勤	なし	
61	同	熊谷裕生	同	非常勤	なし	
62	同	倉賀野隆裕	同	非常勤	なし	
63	同	小出滋久	同	非常勤	なし	
64	同	小岩文彦	同	非常勤	なし	
65	同	小林絵美	同	非常勤	なし	
66	同	小松康宏	同	非常勤	なし	
67	同	小薮助成	同	非常勤	なし	
68	同	今裕史	同	非常勤	なし	
69	同	齋藤修	同	非常勤	なし	
70	同	齋藤知栄	同	非常勤	なし	
71	同	齋藤満	同	非常勤	なし	
72	同	酒井謙	同	非常勤	なし	
73	同	酒井行直	同	非常勤	なし	
74	同	坂口美佳	同	非常勤	なし	
75	同	櫻田勉	同	非常勤	なし	
76	同	佐々木環	同	非常勤	なし	
77	同	佐藤滋	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
78	同	佐藤武司	同	非常勤	なし	
79	同	佐藤壽伸	同	非常勤	なし	
80	同	佐藤正嗣	同	非常勤	なし	
81	同	佐藤真理子	同	非常勤	なし	
82	同	佐藤元美	同	非常勤	なし	
83	同	佐藤祐二	同	非常勤	なし	
84	同	里中弘志	同	非常勤	なし	
85	同	重松隆	同	非常勤	なし	
86	同	穴戸寛治	同	非常勤	なし	
87	同	柴垣有吾	同	非常勤	なし	
88	同	柴原伸久	同	非常勤	なし	
89	同	島田久基	同	非常勤	なし	
90	同	島野泰暢	同	非常勤	なし	
91	同	常喜信彦	同	非常勤	なし	
92	同	庄司哲雄	同	非常勤	なし	
93	同	新宅究典	同	非常勤	なし	
94	同	杉浦寿央	同	非常勤	なし	
95	同	杉山齐	同	非常勤	なし	
96	同	鈴木朗	同	非常勤	なし	
97	同	鈴木一裕	同	非常勤	なし	
98	同	鈴木祐介	同	非常勤	なし	
99	同	清野耕治	同	非常勤	なし	
100	同	祖父江理	同	非常勤	なし	
101	同	高橋計行	同	非常勤	なし	
102	同	高橋延行	同	非常勤	なし	
103	同	滝本千恵	同	非常勤	なし	
104	同	竹内康雄	同	非常勤	なし	
105	同	竹岡浩也	同	非常勤	なし	
106	同	竹田徹朗	同	非常勤	なし	
107	同	竹中恒夫	同	非常勤	なし	
108	同	武本佳昭	同	非常勤	なし	
109	同	田邊一成	同	非常勤	なし	
110	同	谷口正智	同	非常勤	なし	
111	同	玉井宏史	同	非常勤	なし	
112	同	田村功一	同	非常勤	なし	
113	同	田村禎一	同	非常勤	なし	
114	同	田村雅仁	同	非常勤	なし	
115	同	土谷健	同	非常勤	なし	
116	同	鶴岡秀一	同	非常勤	なし	
117	同	鶴屋和彦	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
118	同	寺田典生	同	非常勤	なし	
119	同	土井研人	同	非常勤	なし	
120	同	土井盛博	同	非常勤	なし	
121	同	徳本正憲	同	非常勤	なし	
122	同	徳山博文	同	非常勤	なし	
123	同	友雅司	同	非常勤	なし	
124	同	友利浩司	同	非常勤	なし	
125	同	戸谷義幸	同	非常勤	なし	
126	同	長井幸二郎	同	非常勤	なし	
127	同	中岡明久	同	非常勤	なし	
128	同	長岡由女	同	非常勤	なし	
129	同	中田純一郎	同	非常勤	なし	
130	同	長田太助	同	非常勤	なし	
131	同	長沼俊秀	同	非常勤	なし	
132	同	中村道郎	同	非常勤	なし	
133	同	中元秀友	同	非常勤	なし	
134	同	中山晋二	同	非常勤	なし	
135	同	名波正義	同	非常勤	なし	
136	同	鍋島邦浩	同	非常勤	なし	
137	同	成田一衛	同	非常勤	なし	
138	同	成瀬友彦	同	非常勤	なし	
139	同	西一彦	同	非常勤	なし	
140	同	西尾妙織	同	非常勤	なし	
141	同	錦戸雅春	同	非常勤	なし	
142	同	西野友哉	同	非常勤	なし	
143	同	新田孝作	同	非常勤	なし	
144	同	新田豊	同	非常勤	なし	
145	同	根木茂雄	同	非常勤	なし	
146	同	野口智永	同	非常勤	なし	
147	同	橋本幸始	同	非常勤	なし	
148	同	橋本哲也	同	非常勤	なし	
149	同	長谷川毅	同	非常勤	なし	
150	同	長谷川元	同	非常勤	なし	
151	同	波多野道康	同	非常勤	なし	
152	同	服部元史	同	非常勤	なし	
153	同	花房規男	同	非常勤	なし	
154	同	浜崎敬文	同	非常勤	なし	
155	同	濱田千江子	同	非常勤	なし	
156	同	林晃一	同	非常勤	なし	
157	同	林晃正	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
158	同	林 秀 樹	同	非常勤	なし	
159	同	速 見 浩 士	同	非常勤	なし	
160	同	原 澤 信 介	同	非常勤	なし	
161	同	原 田 浩	同	非常勤	なし	
162	同	春 口 洋 昭	同	非常勤	なし	
163	同	樋 口 輝 美	同	非常勤	なし	
164	同	兵 藤 透	同	非常勤	なし	
165	同	平 和 伸 仁	同	非常勤	なし	
166	同	廣 谷 紗 千 子	同	非常勤	なし	
167	同	深 川 雅 史	同	非常勤	なし	
168	同	深 澤 瑞 也	同	非常勤	なし	
169	同	深 水 圭	同	非常勤	なし	
170	同	藤 井 秀 毅	同	非常勤	なし	
171	同	藤 森 明	同	非常勤	なし	
172	同	古 井 秀 典	同	非常勤	なし	
173	同	古 谷 隆 一	同	非常勤	なし	
174	同	本 田 浩 一	同	非常勤	なし	
175	同	前 田 国 見	同	非常勤	なし	
176	同	前 田 益 孝	同	非常勤	なし	
177	同	前 野 七 門	同	非常勤	なし	
178	同	正 木 崇 生	同	非常勤	なし	
179	同	升 谷 耕 介	同	非常勤	なし	
180	同	松 岡 哲 平	同	非常勤	なし	
181	同	松 下 和 通	同	非常勤	なし	
182	同	松 橋 尚 生	同	非常勤	なし	
183	同	丸 山 範 晃	同	非常勤	なし	
184	同	丸 山 之 雄	同	非常勤	なし	
185	同	三 瀬 直 文	同	非常勤	なし	
186	同	溝 渕 正 英	同	非常勤	なし	
187	同	満 生 浩 司	同	非常勤	なし	
188	同	三 股 浩 光	同	非常勤	なし	
189	同	三 宅 秀 明	同	非常勤	なし	
190	同	宮 田 昭	同	非常勤	なし	
191	同	向 山 政 志	同	非常勤	なし	
192	同	村 上 円 人	同	非常勤	なし	
193	同	森 石 み さ き	同	非常勤	なし	
194	同	森 下 義 幸	同	非常勤	なし	
195	同	安 田 日 出 夫	同	非常勤	なし	
196	同	矢 内 充	同	非常勤	なし	
197	同	柳 田 太 平	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
198	同	山内 淳	同	非常勤	なし	
199	同	山縣 邦弘	同	非常勤	なし	
200	同	山川 智之	同	非常勤	なし	
201	同	山下 明泰	同	非常勤	なし	
202	同	山下 芳久	同	非常勤	なし	
203	同	山中 正人	同	非常勤	なし	
204	同	山本 裕康	同	非常勤	なし	
205	同	横尾 隆	同	非常勤	なし	
206	同	横山 啓太郎	同	非常勤	なし	
207	同	横山 仁	同	非常勤	なし	
208	同	吉岡 伸夫	同	非常勤	なし	
209	同	吉田 一成	同	非常勤	なし	
210	同	吉田 理	同	非常勤	なし	
211	同	吉田 英昭	同	非常勤	なし	
212	同	吉本 充	同	非常勤	なし	
213	同	竜崎 崇和	同	非常勤	なし	
214	同	若井 幸子	同	非常勤	なし	
215	同	脇野 修	同	非常勤	なし	
216	同	鷺田 直輝	同	非常勤	なし	
217	同	和田 篤志	同	非常勤	なし	
218	同	和田 隆志	同	非常勤	なし	

(4) 退任した役員等

氏名	退任時の地位	退任日	退任理由	備考
稲葉 雅章	常任理事	平成 30 年 6 月 28 日	任期満了による	
安藤 亮一	理事	同	同	
土田 健司	理事	同	同	
藤元 昭一	理事	同	同	
政金 生人	理事	同	同	
峰島 三千男	理事	同	同	
八木 澤隆	理事	同	同	
吉田 克法	理事	同	同	
仲谷 達也	監事	同	同	

(5) 役員等の報酬等

区 分	人 数	報酬等の総額	備 考
理 事	20名	なし	
監 事	3名	なし	
評 議 員	218名	なし	
合 計	241名		

② 会員に関する事項

会員種別	員 数		増 減 数	摘 要
	今年度末	前年度末		
	平成 31 年 3 月 31 日現在	平成 30 年 3 月 31 日現在		
正 会 員	13,824	13,679	145	
施設会員	4,107	4,073	34	
賛助会員	62	64	-2	
名誉会員	45	45	0	
計	18,038	17,861	177	

③ 職員に関する事項

平成 30 年度末現在

職 名	常勤・非常勤	氏 名	採用年月日	担当事務	備 考
事務局長	常 勤	坂 入 幸 雄	平成 30 年 4 月 1 日	総 括 管 理	

④ 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開 催 年 月 日	議 事 事 項	会議の結果
平成 30 年 6 月 1 日 第 1 回理事会	1. 入会・退会に関する件 2. 平成 30 年度日本透析医学会定款及び定款施行細則の一部改正（案）に関する件 3. 平成 30 年度日本透析医学会賞（木本賞）・奨励賞の選考に関する件 4. 平成 29 年度事業報告（案）に関する件 5. 平成 29 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等についての承認に関する件 6. 平成 29 年度監事による監査報告に関する件 7. 第 63 回通常総会開催に関する件 8. 臨時総会開催に関する件 9. 役員選任に伴う選挙立会人候補者の氏名に関する件 10. 第 63 回学術集会・総会開催時の各賞表彰式次第（案）に関する件 11. 委員会委員の推薦に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 31 年 3 月 22 日 第 6 回理事会	23. 台湾腎臓学会、韓国腎臓学会及び本学会との 3ヶ国共同シンポジウムの締結と開催に関する件 24. 会告 透析液水質確保に関する研修に関する件 25. 「腎不全 治療選択とその実際」小冊子に企業名を掲載する件 26. 第 64 回（2019 年）学術集会・総会に関する件 27. 第 65 回（2020 年）学術集会・総会に関する件 28. 第 66 回（2021 年）学術集会・総会に関する件 29. 透析中止に関する件 30. 2019 年理事会等日程に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

(2) 総 会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 29 年 6 月 15 日 通常総会	1. 日本透析医学会定款の一部改正に関する件 2. 日本透析医学会定款施行細則の一部改正に関する件 3. 平成 29 年度 貸借対照表及び正味財産増減計算書等についての承認に関する件 4. 名誉会員の推薦に関する件 5. 第 66 回（2021 年）学術集会・総会並びに会長に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
平成 29 年 6 月 15 日 臨時総会	1. 立会人の選出に関する件 2. 役員（理事 20 名、監事 3 名）の選任に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認

(3) 各種委員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・総務委員会 ・財務委員会 平成 30 年 3 月 1 日	「該 当 な し」 1. 2019 年度 予算（案）について 2. 2019 年度 新規事業計画に伴う概算要求（案）について 3. 特定資産「50 周年記念資金」について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・編集委員会 欧文誌運営委員会 平成 30 年 11 月 3 日	「該 当 な し」 1. BMC 社の RRT 誌の担当 Senior Editor 及び英国ロンドンの Publisher の紹介 2. JSDT 編集委員会・欧文誌運営委員会メンバーの紹介 3. BMC 社から Journal の編集方針総論と RRT 誌の現状報告 4. JSDT の RRT 誌への期待と希望提案 5. 今後の活動方針をめぐる意見交換と検討 6. 今後の活動方針の方向性の決定 7. 今後の活動方針の具体策の確認 8. その他	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
和文誌運営委員会	「該 当 な し」	
・学術委員会 平成 30 年 4 月 27 日	1. 学会賞・奨励賞の選考に関する件 2. 学術委員会・統計調査委員会公募研究に関する内規に関する件 3. システムティックレビュー（SR）の論文横行に関する件 4. 栄養問題検討ワーキンググループ委員会報告の件 5. 名誉会員・学会賞・奨励賞及びcomedicalスタッフ研究助成授与式に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 30 年 4 月 27 日	6. 平成 29 年度事業報告（案）について 7. 透析医学用語集作成小委員会報告について 8. CKD-MBD の GL 改訂について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・統計調査委員会 平成 30 年 6 月 15 日	1. 2017 年末調査のまとめ 2. 2017 年末調査の集計結果作成方針 3. CD-ROM 配布中止について 4. 今後の統計調査の方針, 2018 年調査項目・選択肢の検討 5. 2016 年末現況報告 RRT への投稿状況, USRDS へのデータ提供報告, 英語版 HP の報告 6. 解析小委員会からの報告 7. WADDA システムの検証について 8. 過去データ (2014 年以前) の完全匿名化について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
平成 30 年 8 月 24 日	9. 2018 年学術集会 地域協力委員会 1. 2017 年末調査のまとめ 2. 2017 年末調査現況報告について 3. 2018 年末調査項目 4. 2016 年末現況報告 RRT への投稿状況報告 5. 解析小委員会からの報告 6. 地方自治体からのデータ提供依頼について 7. 過去データ (2014 年以前) の完全匿名化について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
平成 30 年 11 月 17 日	1. 今期 (2018 年 9 月～2020 年 8 月) の目標 2. 2018 年末調査のスケジュール確認 3. 2017 年末調査 会誌 12 月号現況報告 4. 2017 年末現況 CD-ROM の課題/2019 年以降 CD-ROM 作成廃止の件 5. イーハイブに依頼する WADDA システム帳票確認枚数 6. データ切り出しに関する導入患者の定義 7. HP (一般のページ) の「統計調査・学術研究のページ」 8. 第 64 回日本透析医学会学術集会 委員会企画 9. 2017 年末調査の解析計画の検討/戦略的 CQ 案 10. WCN でのミーティングについて	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・専門医制度委員会 平成 30 年 9 月 9 日	1. 2018 年度専門医認定申請書類審査について 2. 2018 年度専門医認定試験要項について 3. 2018 年度専門医認定試験について 4. その他	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
平成 30 年 11 月 30 日	1. 2018 年度 第 29 回 専門医認定試験判定結果について 2. 2018 年度認定施設・教育関連施設 (新規・更新) 審査報告について 3. 専門医制度規則, 専門医制度規則施行細則の一部改正 (案) について 4. 全国規模学術集会・地方学術集会 認定申請について 5. その他	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
平成 31 年 3 月 8 日	1. 認定期間 2019 年 3 月 31 日までの専門医更新申請審査結果について 2. 2018 年度 第 29 回 指導医認定申請審査結果について 3. 認定期間 2019 年 3 月 31 日までの指導医更新申請審査結果について 4. 地方学術集会, 障害教育プログラム, 全国規模学術集会について 5. 専門研修カリキュラム第 2 版, 専門研修プログラム第 3 版, 第 1 回 サブスペシャルティ領域協議会について 6. その他	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・国際学術交流委員会 平成 30 年 8 月 31 日	<ol style="list-style-type: none"> 第 63 回日本透析医学会学術集会・総会 委員会企画プログラムの振り返り及び予算の件 第 64 回日本透析医学会学術集会・総会 委員会企画プログラムの立案に関する件 国際交流委員会で招聘した先生の旅費，謝礼の件 国際交流委員会で招聘した先生の VISA，保険，保証の件 委員会企画のワークショップ等で招聘した先生に RRT に執筆依頼する件 Farewell party，アジアの夕べの件 第 64 回日本透析医学会学術集会会長との申し合わせ事項について その他 	<p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p>
・保険委員会 平成 30 年 11 月 2 日 平成 30 年 11 月 9 日 平成 31 年 3 月 15 日	<ol style="list-style-type: none"> 2020 年度新規保険取載項目の検討 日本透析医学会保険対策ワーキンググループの活動 第 64 回総会で，保険委員会として，委員会企画と教育講演を企画する その他 <ol style="list-style-type: none"> 前回の議事録の確認と関連議論 第 64 回総会で，保険委員会の委員会企画 日本透析医学会保険対策ワーキンググループの活動 2020 年度新規保険取載項目の検討 その他 <ol style="list-style-type: none"> 外保連加盟の件 外保連に関して 外保連への申請に関して 内保連に申請する内容に関して JSDT 総会時の保険委員会企画に関して その他 	<p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p>
・倫理委員会	「該 当 な し」	
・腎不全総合対策委員会 平成 31 年 2 月 1 日	<ol style="list-style-type: none"> 今後の活動方針について 継続している地域差に関する研究について 腎代替療法の選択に関する調査について 末期腎不全患者の血糖管理に関する調査について その他 	<p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p>
・危機管理委員会 平成 30 年 11 月 1 日	<ol style="list-style-type: none"> 活動報告について 第 64 回日本透析医学会学術集会における委員会企画について 今後の委員会の活動方針について 「医療安全対策小委員会」医療安全調査・支援センターについて 「医療安全対策小委員会」医療安全全国共同行動会員連絡会議提出の活動状況報告について 	<p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p> <p>報告・承認</p>
・研究者の利益相反等 検討委員会	「該 当 な し」	
・男女共同参画推進委員会	「該 当 な し」	

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項

申請月日	申請事項	許可等月日	備考
	「該当なし」		

⑥ 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約の概要
	「該当なし」	

事業報告の附属明細書

1. 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理事長	中 元 秀 友	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
		公益社団法人 日本臨床工学技士会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 腎臓病臨床経済協議会	理 事	一 部
		一般社団法人 埼玉医科大学医師会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 LINE	代表理事	
常任理事	猪 阪 善 隆	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	一 部
		大阪透析研究会	幹 事	一 部
		大阪腎臓バンク	理 事	一 部
		大阪ハートクラブ	理 事	関係なし
	重 松 隆	一般財団法人 和歌山腎臓財団	理事長	一 部
		公益財団法人 和歌山県角膜・腎臓移植推進協会	副理事長	一 部
		一般社団法人 日本アフェリシス学会関西地方会	代表理事	一 部
		一般社団法人 日本腎臓学会西部部会	理 事	一 部
		公益財団法人 わかやま移植医療推進協会	評議員	一 部
	新 田 孝 作	認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	
理 事	岡 田 一 義	認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	
	熊 谷 裕 生	日本循環制御医学会	理 事	関係なし
	酒 井 謙	日本腎移植学会	幹 事	ほぼ同一
	土 谷 健	一般社団法人 バイオマーカー研究会	代表理事	関係なし
	友 雅 司	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	一 部
		認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	一 部
		一般社団法人 日本人工臓器学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人ハイパフォーマンス・メンブレン研究会	理 事	
	花 房 規 男	一般社団法人 日本アフェリシス学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
	深 川 雅 史	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本CKD-MBD研究会	代表理事	一 部
	深 澤 瑞 也	特定非営利活動法人 日本アクセス研究会	理 事	一 部
	森 石 み さ き	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	関係なし
	吉 田 一 成	公益財団法人 かながわ健康財団	理 事	
		NPO 法人 いつでもどこでも血液浄化インターナショナル	理 事	一 部
		一般社団法人 日本移植学会	幹 事	

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
監 事	宍 戸 寛 治	公益社団法人 日本透析医会	専務理事	一 部
	武 本 佳 昭	特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本アクセス研究会	監 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本 HPM 研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	監 事	一 部

2. その他の記載事項

その他事業報告の内容を補足する重要な事項はない